

獅子舞で地元を元気に



岩井沢三匹獅子舞保存会
会長 松本 作寿 さん

去年は獅子舞経験者の大人が舞を奉納しましたが、今年はどうするか悩みました。打診した子どもや保護者が理解してくれて感謝しています。

子どもたちも、1カ月という短い期間に、週6日も練習しました。本番の奉納でも期待にこたえてくれましたね。大したものですよ。

課題は後継者不足です。子どもだけでなく、囃子の太鼓や笛を奏する人材も高齢化していて、若い担い手がいません。

舞や囃子の経験者の中にも、市外・県外に出て行ってしまった人がいます。少しでも地元に残って、地元に戻って、伝統を継承してもらいたいです。この獅子舞には、地域の人なら誰でも、少なからずかわってききました。それだけに、獅子舞に対する思いは共有できるはずですよ。

11月25日には、都路小学校で獅子舞を披露してきました。今後もこの獅子舞を通して、地元を元気にしていきたいですね。



保存会の皆さんが獅子役の子どもたちをサポート



震災で途絶えた伝統

岩井沢の三匹獅子舞は、市の無形民俗文化財に指定されている伝統文化です。伝来は不明ですが、お囃子の太鼓に「明和三年（1766年）の銘があるので、短くても250年以上の歴史を誇ります。毎年秋、天日鷲神社秋季例大祭に奉納されてきました。

獅子は、太郎、次郎、そして花子と呼ばれる3匹。昔は、中作、平蔵内、言神の各若連が担ってききましたが、近年は、岩井沢全域の小学4年生の長男に受け継がれ、6年生までの3年間舞うことになっていました。

しかし、平成23年3月、東日本大震災と原発事故が起こると、状況は一変します。市は都路町の全町避難を決断。4月には、岩井沢地区は緊急時避難準備区域の一部に指定されました。人々は地域の外に避難し、神社の祭礼も行えなくなりました。三匹獅子舞も奉納できなくなったのです。

避難解除、大人が舞う

平成26年4月、市内のすべての避難区域が解除され、都路の学校やこども園が現地で再開する



天日鷲神社境内の狛犬

と、都路に戻る人も少しずつ増えていきました。平成29年10月31日現在、都路からの避難者のうち、89.3%の人が都路に帰っています。

その間、岩井沢三匹獅子舞保存会では、獅子舞を復活したいという思いを強くしていました。いや、地域の人も同じだったでしょう。なぜなら、天日鷲神社秋季例大祭は地域全体の催しであり、地域の誰もが少しは獅子舞にかかわってきたからです。

とはいえ、何年間も途絶えていた伝統文化を復活させるのは簡単ではありません。保存会の人々は悩みましたが、まずは復活することに意義があると考え、平成28年は獅子舞を奉納すると決めました。子どもではなく、獅子舞経験者の大人で。

そして28年10月30日、晴天の中、6年ぶりに三匹獅子舞が天日鷲神社境内で奉納されたのでした。

約

1カ月後の10月29日。保存会や地域の皆さんに導かれた3匹の獅子たちは、無事に舞を奉納することができたのでした。



人口減少と少子高齢化が進む現在、特に震災後は、継承するのが難しくなっている伝統文化や伝統芸能が少なくありません。

伝統は人類の遺産の一つです。伝統そのものだけではなく、継承すること自体にも意味があります。ともすれば、糸のほうに目が行きがちですが、糸を紡ぐ行為自体にも意味はあるのです。

あなたの近くにも、伝統文化や伝統芸能があるはずですよ。文化や芸能そのものはもちろん、その担い手や活動にも目を向けてみてはいかがでしょうか。

子どもに舞ってほしい

6年ぶりの復活に保存会も地域の人々も喜びましたが、次の年はどうするのか、保存会は悩みました。大人が舞うのか。それとも、一から子どもに教えるのか。第一、舞ってくれる子どもがいるのか。

岩井沢も人口、特に子どもの人数が減っています。29年3月、岩井沢小学校が閉校したばかりです。それでも、やっぱり子どもに舞ってほしいという思いは消えません。松本会長は9月、心当たりの子どもとその保護者に、正式に獅子役の打診をしました。すると意外にも、子どもも保護者も快諾。松本会長は「運が良かった。」と笑います。

獅子小学校6年の佐藤智也くん、吉田優成くん、石井将くん。岩井沢の子どもたちです。

9月下旬から練習が始まりました。週6日、子どもたちも保存会会員も、例大祭当日に向けて練習に励みました。普段は等身大の小学生である3人も、練習では別人のように真剣な表情を見せたそうです。

避難、学校再開、閉校、開校：いろいろな経験をした彼らだからこそ、自分たちの地域に感じるものがあるのかもしれない。

舞の奉納を終えて



佐藤 智也 くん
「難しかったけど、きちんと舞うことができてよかった。」



吉田 優成 くん
「緊張したけど頑張れた。“ケンカ”の場面が難しかった。」



石井 将 くん
「獅子頭が重くて大変だった。終わってホッとした。」

獅子の太郎と次郎の「ケンカ」の場面

獅子頭の重さは約3キログラム。衣装は全部で5キログラムにも及ぶ



保存会は、佐藤くん、吉田くん、石井くんの3人には、中学2年まで獅子役を務めてほしいと考えているそうです。

後日、3人に「あと2年間続ける気持ちはありますか?」と尋ねると、3人とも「もちろんあります」と力強く答えました。